



ラン科の植物にはきれいな、目立つ花を着ける種類がよく知られています。特に栽培種でははつきりしています。でも野生のランを好む人も多いようです。今月は国内に野生し、そのまま栽培もされてきたシランを紹介します。

▼シランとは

シランは紫蘭で、名前のように、紫色の花を着けるきれいなラン科の多年草で、栽培も容易なため、家庭の庭先など地面に植えられているものを見ている方も多いためと思われます。花期は春

里山に育む生きものたち

21 シラン

(キジカクシ目 ラン科)

学名 *Bletilla striata*(Thunb.)Rchb.f.
var.*striata*

写真・文 / 安 昌美

から初夏で、花は花序の下の方から開いていきます。国外では中国、台湾、朝鮮に分布が知られ、国内では本州(中南部)、四国、九州、琉球に分布し、福島県のいわき市付近の海岸部を北限地としています。生育地はやや湿った草地や崖地などです。

県内で本場に野生のものであるという群生を見るのは難しいと思います。国内でも本来の自生かどうかの判断が難しい生育地が多いようです。私が見た県内の野生と思われる生育地は海岸近くのクロマツがまばらに生えている林下の明るいやや湿った傾斜地でした。茨城町の生育地は人工的に作られた湿地で、ヤナギ類の低木がまばらに生

えており、水のある部分からやや乾燥した場所まである、湿性植物のよい生育地になっていました。野生状ではありますが、栽培種の種子が何らかの方法で到達し、個体数を増やしたと思われます。造成される前に野生の群落が近くにあり、そこから種子が供給され、その群落がどこかにひっそり生きていてくれればうれしいです。

▼絶滅危惧種のシラン

シランは国レベルでは準絶滅危惧種に指定されています。また、多くの県が絶滅危惧種に指定しています。福島県では絶滅危惧Ⅰ類、栃木県では絶滅危惧Ⅱ類、埼玉県では絶滅危惧ⅠB類にそれぞれ指定しています。現在、茨城県では絶滅危惧ⅠB類に指定し、高萩市、東海村、鹿嶋市などが生育地として記録されています。シランが絶滅の危機になったのは開発などでの生育地の消失、採取されて個体が絶滅してしまうことなどが主な理由とされています。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤 1080 TEL029-292-1111 FAX029-292-6748
ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成25年11月30日現在)

◆総人口 34,140 人 (-90) 男 17,074 人 (-48) 女 17,066 人 (-42) ◆世帯 12,555 戸 (-10)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インクを使用しています